さいたま市長４月定例記者会見

平成２２年４月８日（木曜日）

午後１時３０分開会

○　進　　行　　それでは、さいたま市政記者クラブの皆様、定刻となりましたので、ただいまから市長の定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社の共同通信社さん、進行のほうよろしくお願いいたします。

○　共同通信　　４月の幹事社を務めます共同通信と申します。よろしくお願いします。

それでは、まず本日の記者会見の内容について市長から説明をお願いします。

○　市　　長　　皆さん、こんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。本日の議題は３件でございます。

それでは、議題１、「Ｅ－ＫＩＺＵＮＡサミット・フォーラムｉｎさいたま」の開催についてご説明をさせていただきます。

平成２２年４月２６日、月曜日の午後に、さいたま新都心にあるホテルブリランテ武蔵野におきまして、「第１回Ｅ－ＫＩＺＵＮＡサミット・フォーラムｉｎさいたま」を開催することになりましたので皆様にお知らせをいたします。

このサミット・フォーラムは、自治体や企業の首脳が集まり、電気自動車の普及の意義や課題、自治体におけるベストプラクティスの共有化と広域的なネットワークづくりや取り組みを通じて電気自動車で安心、快適にどこへでも行ける社会を目指すものであります。

今回は、私どものできる範囲で東日本の多くの都市にお声がけをいたしましたところ、２県１７市という自治体がサミットの趣旨にご賛同いただき、首脳がご参加をいただけることになりました。また、フォーラムにつきましても同様に経済産業省、国土交通省、環境省をはじめ、電気自動車３メーカーに加えまして、駐車場大手のパーク２４あるいは家電大手で全国展開をされておりますヤマダ電機といった多彩な企業首脳にご賛同いただきまして参加していただけることになりました。

私は、今回の「Ｅ－ＫＩＺＵＮＡサミット・フォーラムｉｎさいたま」

には２つの大きな意義があると考えております。

１つは、さいたま市が行うこのサミットが電気自動車の分野では全国で初めての広域的な都市間ネットワークの構築を図る会議ということであります。さらに、フォーラムでは都市間だけでなく、さきに申し上げましたように国や多彩な企業と参加自治体とが連携することで、これまでにない「多元的なネットワーク」づくりが可能となります。

また、もう一つは、この電気自動車に伴う技術が我が国の環境技術立国としての今後の成長を支える基幹の一つであることであります。電気自動車を中心とした技術は、単に自動車のみならず、多くの分野に波及効果を与え、地球温暖化対策に大幅に寄与するものであるとともに、多くの持続可能なイノベーションにより我が国の成長戦略にも大きく寄与するものであると考えております。

電気自動車に関する組織としては、先日「チャデモ（CHAdeMO）協議会」という急速充電器の日本方式の国際標準化を目指す組織が立ち上がりましたが、さいたま市も国などとともにオブザーバーとして参加をさせていただいております。私は、国際標準化に向けまして、この都市や企業の連携による「多元的ネットワーク」が少なからぬ支援となるものと考えており、同様の取り組みが今後関西圏や中京圏でも始まり、全国的な連携に進むことを期待をしております。

電気自動車は、まだ発展途上にあるため、この第１回では、まず第一歩として、さきに触れました電気自動車普及に関する意義や課題、自治体のベストプラクティスの共有化を第一に図ってまいりたいと考えております。

さらには、今後の大まかな方向性や望ましいあり方について、参加者によるコンセンサスができればと考えております。

黎明期であります今から、みんなでともに知恵を絞って環境的にも持続可能なライフスタイルや経済発展を目指し、「人々が未来に希望を持てる」世界をつくり出すことが自治体、企業を問わず、私たちに現在共通して求められる最も大切な社会的責任であると考えています。

「子供たちの未来」に対して、私たちさいたま市から全国に提案したいもの、私が日ごろ大切にしております「絆」を目に見える形で具体化するものとして報道の皆様にも応援をいただければ幸いでございます。

なお、当日は、Ｅ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトに基づく事業として、本市のＥＶ１０台や電気自動車３メーカーのＥＶ、また埼玉県内デザイン会社と早稲田大学が開発をしました１人乗り小型電気自動車をさいたま新都心駅コンコースに展示する予定となっております。

さいたま新都心駅は、ちょうどまち開きから１０周年に合わせまして、地球温暖化対策に資する次世代の照明として注目をされておりますＬＥＤ照明を導入し、大型ビジョンもＬＥＤビジョンといたしました。電気自動車の展示とともに、ＬＥＤ照明やＬＥＤビジョンによって明るく、クリーンなイメージになった新都心駅コンコースを多くの方にごらんをいただきまして、環境先進都市さいたま市をアピールをしていきたいと考えています。

今後もさいたま市として、Ｅ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトに関連した具体的な事業を積極的に推進をしていくつもりでございます。

続きまして、議題２、「子育て支援センターを開設します」についてご説明をいたします。

本市では、子育ての負担感や不安感の軽減を図るため、親同士の触れ合いや子育て中の方々の出会いの場として、また育児相談や子育てに係る情報提供を行う場として、単独型の子育て支援センターを整備してまいりました。

このたび、来る４月１７日、土曜日に、「子育て支援センターエンゼルキッズさいたま西」をＪＲ指扇駅前に開設いたします。

単独型の子育て支援センターとしては、市内９カ所目となります。「しあわせ倍増プラン２００９」では、「平成２４年度末までに市内１０カ所に整備をします」と掲げておりますけれども、今後未整備地区の南区の単独型子育て支援センターにつきましては、武蔵浦和駅第１街区再開発事業に伴い、平成２４年度に整備予定としておりまして、これで目標が達成できるものと考えております。

また、本整備とは別に、見沼区の「子育て支援センターさいのこ」におきましては、開所日がこれまで週５日でありましたけれども、これを週６日に拡大をしまして、これによりまして９カ所すべての単独型子育て支援センターで土曜日の開所を実施することができるようになります。

この開所日の拡大によりまして、「しあわせ倍増プラン２００９」で「平成２４年度末までにすべての単独型子育て支援センターでの土曜日開所を実施します」といった工程表を１年間前倒しをして、すべての単独型子育て支援センターで土曜日開所を実施することになりました。

ちなみに、現在運営中の８施設におきましては、２月までに延べ約１２万人の方にご利用をいただいております。

今後は、就労世帯や父親の利用機会拡大が図られますことから、子育ての負担感や不安感の軽減はもとより、父親の育児参加のきっかけの場づくり、子育てを楽しむ場としても多くの方にご利用いただきたいと考えております。

続きまして、議題３、「さいたま市大宮盆栽美術館振興プロジェクトチームを設置しました」についてご説明を申し上げます。

さいたま市では、３月２８日にオープンいたしました、さいたま市大宮盆栽美術館の振興を図るために、「さいたま市大宮盆栽美術館振興プロジェクトチーム」を本日付で設置をいたしましたので、お知らせいたします。

まず、プロジェクトチームの業務事項でありますが、１つ目は、盆栽美術館の振興方策について調査研究を行い、その結果に基づきまして必要な業務を行うことであります。

２つ目は、盆栽美術館内外の整備、広報、観光施策について検討し、結論を出すということであります。

そのほかリーダーが必要と認める事項に関しましては、その都度検討していくということとさせていただいております。

チームの設置期間は、本日平成２２年４月８日からで、チームの業務終了を市長の私が認めるまでということにさせていただくつもりであります。

チームの構成につきましては、１つの部局にとどまらず部局横断的な組織とし、メンバーは資料のとおり構成をいたしました。

なお、リーダーは市民・スポーツ文化局スポーツ文化部次長、事務局は文化振興課とし、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くこともできるよう配慮をいたしました。

リーダーは、チームにおける検討状況等を必要に応じて都市経営戦略会議等において報告することとさせていただいております。

この「さいたま市大宮盆栽美術館振興プロジェクトチーム」を通じまして、館内外の設備方策、ＰＲ、観光施策等を打ち出し、市民にとって利用しやすく楽しめるよう、名実ともに世界に誇れる盆栽美術館としてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○　共同通信　ありがとうございました。

それでは、ただいまの市長からの説明について質問のある社はお願いします。

じゃ、私から。まず、一番最初のＥ－ＫＩＺＵＮＡサミットについてなんですが、今回参加される自治体が数多くあるんですけども、こうした自治体間で連携することで得られるメリットというのは具体的にはどのようなことがあるんでしょうか。

○　市　　長　今電気自動車の普及については、それぞれ自治体ベースで、自治体の中で取り組まれているケースが多いと思います。さいたま市も、まさにさいたま市内での整備を目指しているわけでありますけども、ただユーザー側からするとですね、電気自動車を利用するに当たっては市内だけで使うわけではありませんので、やはり広域的にこの電気自動車を使える環境づくりが必要だと思います。

その中で、この地図、先ほど説明しませんでしたけど、このさいたま市を中心としまして広域の、隣接の中核の都市に、今回は２県１７の市に参画をいただきますけれども、主要道路を通過していたりもしますので、こういった広域的な連携、広がりを持つことによって、広域的な利用も安心して可能になるというようなことがあると思います。そういう意味では、こういった広域的な連携、つながりが持てるということになると、まさに全国でも初めての取り組みになると思いますし、車を利用する側にとっては、市内だけ使う車ではなくて、やはりもう少し広域的な形で安心を確保できるというようなメリットがあると考えています。

○　共同通信　どうしたら安心を確保できるんですか。

○　市　　長　急速充電器等ですね、いわゆる充電施設の整備と、それらに関して、これもまた自治体だけでもできないところもございますから、それぞれこの電気自動車を普及するための取り組み、施策、実践的に既にいろんな形で

やられている団体もございますし、これから取り組もうという団体もございます。先進的に取り組んでいる事例などを研究させていただき、情報を共有化させていただくことにより、今のそれぞれ抱えている課題だとか、あるいは取り組むべき方向性だとか、そういったものを共有化して広域的に普及の方向に向けて取り組んでいこうという形のものになってくると思います。

○日本経済新聞　済みません、日本経済新聞です。

参加者なんですけれども、自治体の首脳とあるんですけれども、それぞれ知事や市長さんが参加されるのでしょうか。

○　市　　長　そうですね。はい。基本的には、この２県１７市のですね、知事、市長または副市長が参加をするということになっております。

それから、フォーラムのほうも自動車の３メーカーのほか大手のパーク２４あるいはヤマダ電機、あるいはカーリース大手の住友三井オートサービスなど、あるいは市内の代表企業でもありますカルソニックカンセイ、クラリオンなどの代表的な立場の方にご参画をいただきまして、議論をさせていただこうということになっています。

○日本経済新聞　必ずしも社長さんではない。

○　市　　長　社長さんのケースもあります。今詰めている段階ですので、直前にもう一回その辺はお知らせするつもりですが、基本的には社長さん、あるいはそれに準ずる方がご参加をいただけることになると思います。

○　産経新聞　済みません、産経新聞と申します。

第１回で例えば行動計画であったり、宣言のようなものというのは採択されるんでしょうか。

○　市　　長　そうですね。こういったサミット、フォーラムという形でやりますので、サミットのほうでは自治体間として合意ができたり、あるいは今後の活動について方針となるようなものをできるだけまとめていきたいと思っておりますが、当日の議論なども含めて最終的に結論を出していくという形になると思います。

また、フォーラムについても、民間の企業からの視点も含めまして、民間企業と自治体等々の連携なども含めて、宣言ですとか、あるいはそういった方向性を共同で打ち出せればと思っております。内容については、ま

だ今詰めている段階でございます。

○　**時事通信**　　済みません、時事通信です。

先ほど市長が何か市としての事業を推進していくということを最後におっしゃられていたかと思うんですが、具体的にはどういった事業を計画されていらっしゃるんでしょうか。

○　**市　　長**　　今さいたま市としてもですね、一応平成２２年度の事業ということで採択を受けましたけども、環境省と国土交通省で所管をしております「平成２２年度低炭素地域づくり面的対策推進事業」というものについて、対象地域として２つの事業が採択をいただきました。この事業は温室効果ガス大幅削減の実現に重要となる面的な対策による「環境負荷の小さい地域づくり」を実現するため、地域における低炭素地域づくりのシミュレーションの実施と計画の策定を行うものでございます。

１つは、さいたま市内におきまして自家用自動車を対象に「ＥＶのカーシェアリング」、それから「コミュニティサイクル」などの「低炭素型交通」へのシフトを目指すシミュレーションを行い、地域計画を策定しようとする事業であります。

もう一つは、まさに今回のＥ－ＫＩＺＵＮＡサミットのような形になるかと思いますが、「都市間の広域ネットワーク」の構築に連動する充電インフラネットワークの広域連携計画を策定する事業でございます。これらの事業について、国あるいは研究機関、企業との連携を図りながら計画が策定されることになっておりますので、世界をリードする低炭素社会の実現に向けましてさいたま市も一定の寄与ができると考えています。

○　**時事通信**　　今のを紙でいただくことは可能ですか。

○　**市　　長**　　はい。後ほど、じゃ出させていただきます。

○　**ＮＨＫ**　　済みません。ＮＨＫですけど、盆栽美術館プロジェクトチームですが、構成員以外の出席というのは、それこそ一市民の人が入って何か参加することができるのかということと、オープンから２週間ほどたちましたけれども、よい点も悪い点も含めて市民の方の反応はどうなのかというのと、あと実際、出だしの目標値に達しているのか。オープン１カ月でこれぐらいという目標に達しそうなのかというあたりをちょっとお伺いできればと思います。

○ 市　　長　　１点目の市民の皆さんの参加でございますけれども、中核となるプロジェクトチームの検討については庁内のそれぞれの部局が中心となってくると思いますが、その後、分科会ごとにそれぞれテーマを設けて分けてくると思います。その中で、民間であります観光コンベンションビューロー、商工会議所あるいは周辺との関連ということで鉄道博物館とか、あるいはＪＲあるいは東武鉄道といった運輸事業者の方々、また場合によったら、大学なんかとも連携をして、それぞれのご意見やアイデア、企画などを十分承りながら検討していく場をつくっていきたいなと思っております。それが１点目です。

２点目が、評判でありますが、基本的には非常にやはりいいものができているというような評価をいただいております。ただ、アメニティー的な部分で若干小さなところの課題が幾つかアンケートなどでもご指摘をいただいている部分がございますので、これらも含めて今後このプロジェクトチーム等の中で改善を図っていきたいと思います。

それから、数ですね。ちょうど今１０日間開館をしましたけれども、１０日間の入館者数はですね、３月２８日から４月７日までの１０日間で５，８６２名、１日平均５８６名ということで、大方が順調にというか、好調に推移をしていると言えるんではないかと思います。ただ、やはり天気とかなり密接に関係しておりまして、天気の悪い日はぐっと落ちてしまうということでありますが、特に土、日は１，０００名近い方々に来ていただいているということで、今後、特にゴールデンウイークに大盆栽まつりなどもありますので、そのときにも多分入館当初よりもかなり多くの方々にご来場いただけるんじゃないかということもありますので、それらに向けてしっかりと対応していく準備も今進めているところでございます。

○ 時事通信　　済みません、時事通信です。

ＰＴの関係なんですけども、私の感覚が普通なのかわかんないんですけど、ＰＴって何かできる前につくるというイメージがあるんですけども、明らかに盆栽美術館ができてしまった後にＰＴをつくった、その意義というのは何なんでしょうか。

○ 市　　長　　そうですね、これまでは盆栽美術館については市民局が中心となってやってきたわけですけれども、開設の準備期間が非常に短かったこともあっ

たし、またもう少し「観光」という視点だとか、周辺の動線等の問題、あるいはサインというんでしょうかね、看板、掲示板等の誘導板なんかの問題なども含めて、もう少しきめ細やかにやっていく必要があるというようなこともございましたので、これらも含めてしっかりやっていこうということでプロジェクトチームという形で設置をさせていただいたというところでございます。

これは、もう少し前から私どもも随分言ってきたんですけども、ちょっと対応が遅れてきたというところがあったと思います。

○　産経新聞　済みません。館長さんがプロジェクトチームに入らないというのは、何か意味があるんでしょうか。

○　市　　長　特には意味はありませんし、館長もいろんなご意見持っていますから、館長の意見ももちろん聞いていくつもりですけども、最終的にそういった館長のご意見も含めて、いろんな形で集約をしてやっていくと。それで、短期的に取り組んでいくべき対策と中長期的に取り組むべき対策と２つあると思うんですね。それで、館長さんから随分いろいろ細かいご提案なんかも来ていますので、それはもう短期と中長期に分けて進めていこうということで、そのプロジェクトチームなども含めて検討し、実施していくつもりでおります。

○　朝日新聞　市長、済みません、朝日新聞ですけれども、このメンバーの中にいる盆栽美術館の参与という人は、これはだれですか。

○　市　　長　これは、去年まで担当だった方で、ちょうど定年退職の方のこと言っているんですよね。桑原さんのことですね。それで今、再任用という形で、引き続きその盆栽美術館のそういったものなんか見ているということです。

○　時事通信　市長、済みません、先ほど市長は掲示板とか、そういったものが準備期間で間に合わなかったと。それは、ずっと前から言われていて、この会見でも何回もそういった質問が出ていることだったと思うんですけど、ＰＴをつくらないと、それは解決しないんですか。

○　市　　長　一つ一つの、その掲示板の問題だけではないと思っているんです。掲示板の問題は比較的そんなに時間はかからなくて対応できる問題もありますけれども、例えば鉄道博物館あるいは今後人形博物館等もつくっていきますから、そういった周辺地域との連動性だとか、あるいは氷川神社等周辺

の観光資源との連動性とかですね、もう少しきめ細やかに盆栽美術館との連動性を図っていこうということで、短期的なものというのはそんなにプロジェクトチームで議論するほどのものではないと思っていますけど、中長期的な部分について言うと、これはなるべく早く検討して、また実施をして取りかかっていくということが必要だということでやらせていただいております。

あと、予算的な措置をしていくに当たっても１つの局だけではすぐにできることではありませんので、それであえて経済局だとか都市局だとか、そういったところにも入ってもらって今回行っている。

○　朝日新聞　念のためですけど、美術館で管理上の問題とかは今のところ起きていないという。

○　市　　長　はい。今のところは、おかげさまで人数もたくさん来ていただいていることもあって、やはり盆栽をしっかり見ていただくのと同時に、保全もしていかなくちゃいけないということもありますので、そういったことも含めて今対策と人の配置等も含めてやらせていただいております。

○　東京新聞　済みません、東京新聞ですけど、開館当初から館長さんから要望があったり、市長も幾つかの問題点があるということをおっしゃっていましたけれども、このプロジェクトチームができるまでに何か改善したことはないんでしょうか。

○　市　　長　今細かい点については、例えば受付の表示だとか、そういったことはもう既に取りかかっていますけど、もう少し、すぐに、別に考えなくてもやればいいことと、もうちょっと検討してよりよくしていくことと分けて議論をしてセッションしていこうということでやっていますので、その簡単にできることもちょっと遅れていたというのは現状としてあったと思いますね。

○　埼玉新聞　埼玉新聞です。

大熊館長とプロジェクトチームの関係なんですけれども、今後はプロジェクトチームが、この間の問題ではコミュニケーション不足ということが問題視されましたが、今後大熊館長との直接の窓口は、このプロジェクトチームになるということでよろしいですか。

○　市　　長　そうです。プロジェクトチームであったり、あるいは担当の市民・スポ

ーツ文化局長ということになると思います。

○　共同通信　　市長からの説明について、ほかに質問はありませんか。

ないようですので、そのほかの質問に移ります。

市長、きょうはですね、幹事社からの代表質問というのは事前に用意していなかったんですけども、ちょっとまず私から。

○　市　　長　　はい、どうぞ。

○　共同通信　　政局について伺いたいんですが、本日杉並区長が、前の横浜市長だった中田さんらとともに、新党を立ち上げる意向を、表明しました。まず、この動きについてどう見ていらっしゃるのか。それから、清水市長ご自身が直接、あるいは間接的にこの動きにかかわっていくことはあるのか、お聞かせください。

○　市　　長　　まず、山田区長、それから前横浜市長の中田さんたちがやっている活動については、私自身も実を言うとよい国つくろう志民会議の政治委員会のメンバーの一人でございまして、これまでもいろいろ意見交換等はやらせていただいてきた仲間といいますか、メンバーであります。当初から、党をつくる云々という話もございましたけれど、ただ私たちとしては基本的には党の部分について、直接党に入るとか、党の中での活動に参加するというようなことは、基本的には考えていません。ただ、やはりこの中央主権、あるいは地方分権を推進していくに当たって、地方からの声をしっかりと受けとめてくれているところが、少ないということも事実でありますので、そういう意味ではそういった首長出身者、あるいは地方から声を上げていこうという党ができることについては、歓迎をしたいと思っています。

○　共同通信　　ちょっと重ねてお伺いしたいんですが、歓迎をしたいということは、側面支援といいますか、何らかの形で支援をされていきたいと、そういうご意向なんでしょうか。

○　市　　長　　そうですね。どういった形でその活動がなされていくかということについては、まだ私も十分聞いておりませんけれども、直接的な応援、支援というのは難しいと思っていますけれども、そういった地方の意見を吸収していただいたものが政策として反映されるのであれば、間接的な支援というか、応援というか、声援というか、そういったことはあり得るかもしれ

ないと思います。

○　**共同通信**　　市長の意見が反映されるならとおっしゃいましたが、具体的にはどのような意見が反映されればいいと思いますか。

○　**市　　長**　　そうですね。１つは、政令指定都市市長会等でも言ってきましたけど、大都市制度の問題であるとか、地方分権の推進だとかですね、あるいは政令指定都市の、いわゆる中央との法定協議の場になかなか入れなかったもんですから、ぜひそういった場に政令指定都市の代表も入れてほしいというようなことであるとか、そういったもろもろのことがございますので、そういったことも含めて、ぜひ反映をしていっていただきたいなと思いますね。

○　**共同通信**　　ほかに質問のある記者の方はご自由にどうぞ。

○　**埼玉新聞**　　済みません、埼玉新聞です。ちょっと盆栽の関係に戻ってしまうんですけれども、先月、館長が一時館長就任を辞退するという不運な動きが起きましたけれども、理由としてはコミュニケーション不足ということが挙げられていましたが、この問題が公になることで、盆栽美術館のちょっとイメージダウンにつながったかと思うんですが、今から振り返ってみて、この問題はどこでボタンをかけ違えたかとお思いでしょうか。

○　**市　　長**　　そうですね……昨年盆栽の枯死の問題がございましたので、やはりそれの対応というのが現場も、あるいは担当部局も、大変時間と労力をとられた部分は確かにあったと思いますね。そして、ちょうどそのころから本当は準備に当たらなくてはいけないという作業の期間と、まさに重複をしてしまったというところがあると思っています。

期間的には、もともと開館までの期間が、必ずしも通常と比べると十分な期間ではなかったと思いますけれども、ただそういった問題も含めて、かなり現場のほうに負担がいってしまったということの中で、コミュニケーションが十分に図れなかったというようなことが生まれてきたんではないかと思いますので、この辺については私自身も反省材料として持っております。

○　**埼玉新聞**　　大熊館長の話を聞いていますと、さいたま市のほうでは美術館の前の盆栽会館という意識を引きずっていて、館長のほうは盆栽美術館という意識で物事を考えているように思えるんですけども、その辺の認識の違いとい

うのはどうお感じでしょうか。

○ 市　　長　　そうですね。その辺は、開設準備の段階で、これは私の就任する前に、盆栽美術館という方向性としては決まったと聞いています。その辺のプロセスのところで、ちょっと意識のギャップが、多少その関連する皆さんとの間にあったところはあるかもしれませんね。ただ、基本的には盆栽美術館として開設準備がなされてきたと思っていますし、私も当初から盆栽美術館ができるという認識の中でスタートをしましたけれども。ただ、もちろんこの盆栽美術館は、単に美術館という機能だけじゃなくて、周辺の文化を、振興させる、あるいは盆栽という産業を振興させるという、こういった役割、機能も持っていますから、当然そういった部分と重なり合う部分も当然出てきますので、そういった部分もしっかりやっていくことが必要だと思っています。

○日本経済新聞　　日経です。さっきの新党の話に戻るんですけども、今どれぐらいその話が成熟しているのかよくわからなくて、例えば清水市長のほうに、もう既にその党に参加しませんかとか、そういう打診というのは来ているんですか。

○ 市　　長　　具体的にはございません。それで、もともとよい国つくろうのときに賛同者にならせていただきましたけども、党をつくるということになると、私たちは市民党ということでやっておりますから、特定の党に参加をしたりということには参画はできないということは当初から申し上げてきましたので、具体的な参加の呼びかけはなかったと思います。ただ、政治委員会という形の中で、いろいろ政策を議論したり、それぞれ課題を議論してきたりというようなことはやって、そこには参画をしてまいりましたので、そういう運動体としては私自身も大いに共鳴するところございますけれども、党という形になってくるとですね、やはりなかなかそこに参画するということは、今のところは考えていないと。具体的に話が来たとしてもです。

○ 埼玉新聞　　今週の月曜日に、大宮駅周辺地域戦略ビジョン策定委員会の最終会合が開かれまして、その最後の議論をもとに、さいたま市のほうで５月上旬に構想をまとめるということなんですけれども、最後の策定委員会の中で、駅前広場の整備や、駅の東西通路など４つの優先事項を定めましたが、さ

いたま市としては、今後の課題になるかと思いますけども、この４つの優先事項の中で、さらに優先事項を設けるとか、そのような考えとかはあるんでしょうか。

○　市　　長　そうですね。取りかかりやすいものについて、これから、この間行いました４月５日の策定委員会でご議論いただいて、少しいろんなご意見等もあったので、それらを踏まえて都市経営戦略会議の中で、市のさまざまな計画と整合性を図りながら進めていくつもりでおりますけども、その中で幾つか行政として、リーディングプロジェクトとしてやっていくべきものはあると思っています。それは、やっぱり公共施設の再配置であったり、あるいはインフラ整備の部分であろうと思いますけども、それらについて熟度の高いところから手がけていくということになるんだろうと思っています。

基本は、やはり大宮駅周辺については、民間がやっぱり主役だというふうに思っていますんで、それを行政がどういうふうに支援していくのか、サポートしていくのかということを、いろんな細かい部分にも配慮しながら、進めていきたいなと思っています。

○日本経済新聞　あの委員会の中で黒川委員長が、課題としては相続問題があって、地権者の相続問題をいかにきめ細かく対応できるか、その相談体制を設けることが望ましいというような発言があったと思うんですけれども、具体的にどういう形になるかわからないんですけれども、地権者に対して、そういう相談体制を設けることを、市が設けることというのは考えていらっしゃるんでしょうか。

○　市　　長　そうですね。もちろん行政がやれる範囲というのは限られたところありますけども、ただ現実問題としてはやっぱり大宮駅東口周辺は、かなり相続問題だとか、いろいろ世代交代の時期にも差しかかっているところもありますもんですから、そういう意味では黒川委員長が言ったようなきめ細やかなまちづくりを進めていく上での対応ということは、必要性はすごく感じています。それをどういった形でやっていくかということについては、まだまちづくり事務所と協議しておりませんので、ただそういうきめ細やかさもかなり重要なものかなと思っておりますので、そういった対策もしていきたいと思います。

○　埼玉新聞　　最後の委員会の場で、10年から20年かけて実行に移していくという話になりまして、委員の中から、民間では長期計画というのは３年程度という話があって、民間と行政のほうで随分時間に開きがあるんですけれども、このギャップについて行政のほうで、10年以下に短縮して何かを優先して整備していきたいとか、そういう考えはあるんでしょうか。

○　市　　長　　そうですね。特にそういった機運が少しずつ盛り上がってきているところあるかと思うので、それについてはタイミングを逃さないような動きはしていきたいと思っています。ただ、やはり民間と違うのは、やっぱりどうしてもプロセスがあるもんですから、その辺をやっぱり飛ばすわけにはいかないというところもありますので、民間並みのスピードまではちょっと難しいかなと思っています。ただ、非常に機運が盛り上がってきている部分もあるかと思いますので、そのタイミングは逸しない形で進めていきたいと思っています。

○　産経新聞　　済みません。ちょっと前の話になるんですけども、奈良であったり蕨市で児童虐待の問題というのが全国的に騒がれまして、市長も２００９の中で児童福祉司の増員とかうたわれていますけども、現状を見てですね、どのように把握しているのかと、今後例えば前倒ししたり、拡大していく方針はあるのかというのを。

○　市　　長　　そうですね。この間も蕨でその事件が起こりましたが、去年さいたま市でもやはり死亡事故が起こりました。私自身も、児童虐待の問題は、非常に大きな課題の一つだと思っておりますので、しあわせ倍増プランの中にもそれぞれの人員増員という形で図らせていただいておりますけども、今保健所と連携して、いろんな情報が上がってきているとも聞いております。それらに対して、やはりきちんと認識をして、どうしても行政の場合やや対応とか判断が遅かったりするケースが、児童虐待についていうと出ているなという感じをさいたま市のケース、あるいは蕨市のケースなんかを見て思っているので、その辺は少し行政が動くタイミングというのはやはり基本的には少し早目ぐらいの形で対応していくぐらいのほうがこういった事故が起こらないのかなという印象は持っています。ですので、そういった現場の声をきっちりですね、児童相談所を含めたところで対応して、それらを十分に把握をした上で、ちょっと早目の対応、適切な対応をしっか

り行えるようにしていきたいというふうに思いますけど。

○　**共同通信**　　ほかに質問はありませんか。

○　**埼玉新聞**　　ちょっと話は変わるんですけれども、先日リクルートの調査で、地元へ愛着を感じるという点と旅行先にお勧めするという点で、埼玉県は全国最下位という数字が出たわけですけれども、埼玉県の話ではありますけれども、地元に愛着を感じておられる市長といたしましては、どの辺が埼玉県、あるいはさいたま市に足りないものなのか、もしありましたら教えてください。

○　**市　　長**　　そうですね。さいたま市でやっている市民意識調査だと長く住みたいとか、もう少し住んでいたいというふうな意識が八十何％ということで、これかなり高いんですよ。これは、ほかの政令市と比べてもかなり高い数値で、住んでいらっしゃる方々にとってはね、非常に住みやすい環境のある地域だと、都市だと思っているんですが、もう一方で愛着だとか、あるいは観光という視点になると、愛着という意味では、私がよく言っている絆というか、地域との親密感みたいなものがまだ十分でないという部分も、人間関係という意味で、十分でないというところもあるのかなと思いましたですけれども、ただちょっとアンケートの調査の中身が十分把握されていないので、十分なコメントできませんけども、そんなところがまだちょっとあるかなと思ったりはしています。ただ、あと観光の部分についても、まだまだいいものはたくさんあるんですけども、それらを私たちも広報し切れていないというところがありますので、今回の盆栽美術館も含めて、さいたま市の持っている観光的な魅力を市民の皆さんにもご理解をいただけるように、広報も含めて努力をしていきたいなと思いますね。

○　**埼玉新聞**　　この４７位という順位については妥当とお考えですか、それとも。

○　**市　　長**　　そうですね、妥当かと言われると……ちょっと調査の内容を見てみないとわかりませんけれども、愛着度がそんなに低いとは私は思っていなくて、市民意識調査でも、住んでいる人はやっぱり長く住んでいたい、住みやすさというのは持っているわけですから、それも基本的にはイコール愛着ということにもなるんだろうと思っていますので、どういう、この関連の、多分質問事項との関係だとか、そういったものの影響もあることはあるのかなとは思っているんですけども、４７位ということはないと思っていま

すけどね、皮膚感覚としてはね。

○　**埼玉新聞**　　市長個人としての埼玉県、あるいはさいたま市の魅力というのを一言で言うとどのあたりでしょうか。

○　**市　　長**　　それは一言で言うとやっぱり都市と、田舎という言い方は辺ですけど、自然環境が共存している都市だということですね。ちょうど私が住んでいる見沼区、ちょうど高速の見沼の出口ありますけど、あそこから見る景色を私はいつも、ああ、これはさいたま市のまさに象徴的な景色だなと思っているんですけど、見沼田んぼの先に新都心の高層ビルが見えるんですよ。生活もしやすい一方で、自然環境もまだまだ保全をされていますから、そういう意味では、本来であれば一番生活の中での豊かさとか、幸せを実感できやすい環境はあると思っているので、それをどう市民の皆さんに、その環境のよさを理解してもらうか、感じてもらえるかということをしっかりやることで、政令市の中でも、そういった都市性みたいな都市としての利便性も含めたものと、自然も含めた環境というものを両方バランスよく持っている都市だと思っているんで、こういったことをもっともっと、アピールしていきたいと思いますし、感じていただきたいなと思います。

○　**共同通信**　　ほかに質問がないようですので、きょうの記者からの質問は以上をもってすべて終了させていただきます。

○　**進　　行**　　どうも皆さん、ありがとうございました。

以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。

午後２時１６分閉会